

**令和7年度全国学力・学習状況調査における
北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について**

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一體的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

教科	全体的な傾向や特徴など	よくできた問題	努力が必要な問題
国語	知識・技能においては、1.8%、思考・判断・表現においては、3.1%下回っておりそれぞれに課題がある。特に、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考へることができるかどうかをみる問題には、苦手意識がある。	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方をとらえることができるかどうかを見る問題はよくできている。	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題は努力が必要である。
数学	知識・技能においては、7.8%、思考・判断・表現においては、8.1%下回っておりそれぞれに課題がある。特に、知識を使って自分の意見を記述したり証明したりする問題に苦手意識がある。	知識・技能を使って選択する問題、また、データの活用や確率の問題など時間をかけて解く問題についてはよくできている。	どの分野においても自分の考えや記述したり証明をしたりする問題について努力が必要である。また、読解問題についても努力が必要である。
理科	知識・技能と思考・判断・表現、それぞれにおいて少しずつ全国平均を下回っている。特に、電子領域においては、-3%以上、下回っているところが多い。知識・技能を用いて、短文や記述で表現するところが苦手傾向にある。	地球環境で身近な現象に置き換える問題、地球環境で小学校で習得した知識をもとに分析する問題。いずれも選択式の問題。	どの分野においても身近な事象や実験結果から、考えを表現する問題。身近な事象や実験結果から、自らの考えを言葉を用いて、文章で表現する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

- ・友達関係に満足しているか」「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思うか」の質問に95%以上の生徒が肯定的に答えており、自己有用感の高まりが「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の問いに97%以上の肯定的回答につながっていると思われる。
- ・授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」の結果に課題がある。そのため、今後は課題を調査・分析した結果自分の考えをまとめ、工夫して発表するなどの機会を多く取る必要があると考える。
- ・ICTの活用が小学校時代より非常に不足していることがわかったため、今後は各教科や総合的な学習、また家庭学習等でも積極的に活用させていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業の中で基礎的・基本的な知識・技能の定着を確実にすること。また、それらを使って資料やデータの活用を行ったり、結果について予想を立て、推論を以ていたりする活動なども取り入れていきたい。さらに、自分の考えをまとめて表現したり、発表したりするという活動や取組を教科や総合・学習等でも積極的に取り入れていく必要があると考える。家庭学習を必ず1時間以上行うよう課題を各教科で考えることも必要である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

起床・就寝・食事等に関しては現在の状況を継続して維持していく必要がある。学校の授業時間以外の学習時間については、家庭学習を含め非常に少ない状況が見られる。また、ICTを活用する機会も少ないため、今後は自主的に学習に取り組む姿勢を養うとともに、ICTを活用した課題学習や探求学習等を積極的に行っていく。